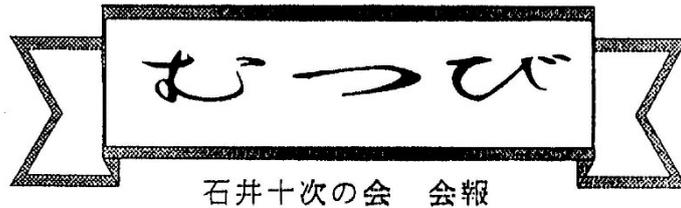


2021年  
(令和3年)  
1月1日



280号

## 年頭のあいさつ

石井十次の会  
会長 橋田 和実

会員の皆様そして関係各位の皆様、令和3年明けましておめでとうございます。

昨年は新型コロナウイルス禍で始まり、そして終わった年でありました。世界全体が恐怖に陥り、感染対策並びに経済対策に追われました。3密いわゆる密閉・密集・密接をさけようと国をあげて取り組みましたが、新型コロナウイルス禍によって社会全体を一変するような状況となりました。人口密集地域ほど新型コロナウイルス感染が高く、地域経済の影響も大となりました。これから、教訓として我が国は大都市人口集中を避け、地方分散型社会構築へと転換せざるを得ないと思います。自然豊かで癒しのある地方に移り住んで、テレワークで普段の仕事をこなし、本社のある大都市には1年に数回出かければよい時代がやってくるのではないのでしょうか。

石井十次は発展途上の明治時代にあって、都市化が進む岡山市から自然豊かな宮崎県茶臼原へと孤児院を移転させたのです。子どもたちにとって大自然の中で農業を営みながら、育つことが最も理想的であると考えたのです。恐らく、明治時代も感染症などが今以上に流行していたのではないかと思います。人口の密度が増すと、いろんな不都合が生じると考えたのでしょうか。これらの石井十次の判断力、決断力そして実行力については、現在の新型コロナウイルス禍の社会が学ぶべきことではないのでしょうか。

現在、石井十次の会は石井十次の精神を学びながら、それを受け継いでいる石井記念友愛社の事業を支援しています。友愛社は各施設で素晴らしい児童養護を実践されています。何年もかけて集団的に愛情を注ぎ、志を

育て、よき出会いをつくり、世の為、人の為に役立とうとする人財を育てておられます。最近、より高い志を持って大学に進学する卒園生も増えてまいりました。このように友愛社の事業にはめざましい成果がみられます。ここで友愛社のような集団的施設児童養護の必要性を痛感させられます。

私は時々、石井十次資料館や友愛社の見学に来られた個人やグループの皆様をガイドさせていただきます。そのガイドを終えた時、皆様が異口同音に申されるのは『来てよかった』です。おそらく石井十次の児童福祉にかける熱意やすごさに感動されるとともに、石井記念友愛社で生活し、成長していく子ども達のことを聞いて感心されるのではないのでしょうか。また、友愛社の樹木や花のある環境に癒されるのだと思います。来館された方は、また来たいと話されて友愛社を後にされます。

これからも我々会員一人ひとりが友愛社の事業に関心を持ち、英知を結集してより良き活動を推進していこうではありませんか。

最後に今年もコロナウィルス禍は収まりそうにありませんが、お互いに気をつけて過ごしてまいりましょう。そして、これからも皆様の温かいご協力とご支援をお願い申し上げて年頭のあいさつと致します。



十次資料館

## 自立援助 みなこホームを訪問

みなこホームとは、本年5月1日に延岡市に開設した友愛園等卒園の進学生を受け入れる自立援助ホームである。

男女6名を対象とした入居型共同生活のホーム。

突然の訪問(10月20日)ではあったが、管理者の丸目和代氏と指導員の西田守氏に対応いただいた。

共同のキッチン・リビングで三密防止を確保しながらのインタビュー。



開設した みなこホーム

ご承知のとおり友愛園では高校卒業後の更なる進学に対して積極的に奨励もし様々な支援も意図的・計画的・組織的に取り組んでいる。

みなこホームもそのひとつ。年齢的にも18歳から22歳と青春まっただ中の若者を対象としているので特有の課題も存在するはず。



丸目和代氏と西田守氏にインタビュー

入居者の社会的自立という目標に向けての親身な取組を熱くていねいに語っていただくお二人の姿に専門性に裏打ちされた人間力の高さをひしひしと感じた。

詳細は今後、原稿依頼に委ねたい。

むつび編集委員長 竹之下悟

## 《 お し ら せ 》

### ★新会員のご紹介（敬称略）

【延岡市】 児玉 美鈴

【都城市】 坂口 衛

### ★ご寄付をいただきました（敬称略）

【川南町】 河野 洋子

【延岡市】 松田 良子

【都城市】 宮島 照美

沖水地区民児協

【三股町】 小倉 幸利

【高鍋町】 恵利 弘一

【東京都】 柳田 せい子

### ★11/21～12/20 の資料館来館者

団体・グループ 40人

個人 大人24人 小中高生1人

計65人

ここまでの掲載者は編集委員会開催の都合により12月20日までのものとしていきます。

### ★2月号の通信発送作業

2月 9日（火）9時から印刷・製本

10日（水）9時から印刷・製本

この会報は、宮崎県を中心に全国1700余の個人・団体に毎月送付しています。

社会福祉法人 石井記念友愛社

☎ 884-0102

宮崎県児湯郡木城町大字椎木 644-1  
後援会「石井十次の会」

TEL/FAX 0983-32-4612

メール

[yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp](mailto:yuuaisya-jyuujinokai@kijo.jp)

### ●児島虎次郎の絵が宮崎大学にも展示

児島虎次郎の油彩画2点が宮崎大学（木花キャンパス）に展示されていることについては、2015年の「むつび214号」でお知らせしました。本来なら友愛社にあるべき虎次郎の絵がなぜ宮大にあるのか、宮大当局に聞いても由来は不明とのことでした。その後、以下の事実がわかりました。昭和34年4月、宮崎県立図書館に友愛社から虎次郎の絵数点を貸出し展示していました。同4月5日午後4時頃、隣接の県町村会館から出火、折からの強風にあおられて開館中だった県立図書館まで類焼し全焼しました。展示中の児島虎次郎画伯や郷土出身の塩月桃甫画伯の絵画など貴重な美術品が焼失または行方不明になったとされています。宮大にある絵はそのときに行方不明になった絵ではないか、というのが児嶋草次郎理事長のお話でした。多分そうにちがいません。それらの絵は数奇な運命をたどって現存していることとなります。2点ともすばらしい絵です。お近くにおいでの際はご一見をお奨めします。



【宮大に展示されている虎次郎の絵】  
左：室内風景、右：婦人像

### \*編集後記

「むつび」巻頭の1～2頁は橋田会長に年頭のあいさつをいただきました。感謝いたします。

新型コロナウイルスが終息しない中で新年を迎えましたが、ワクチンの開発が期待できるところまで来ました。明るい年となることを祈ります。

\*文責 石川